

## 広島県空港振興協議会「空港活性化部会（第3回会議）」について

### 1 概要

広島空港の将来像や今後の運営のあり方等について検討するため、広島県空港振興協議会に県、市町及び経済団体等を構成員とする専門部会として設置した「空港活性化部会」の第3回会議を次のとおり開催した。

### 2 会議内容

- (1) 日 時 平成 28 年 3 月 30 日（水）10：00～12：00
- (2) 会 場 広島県庁北館 4 階 第 3 委員会室
- (3) 出席者 出席者名簿のとおり
- (4) 主な内容
  - ア 広島空港の将来像と今後の取組みについて
  - イ 広島空港における空港経営改革について
- (5) 資 料 別添のとおり
- (6) 出席者からの主な意見

- ① 空港経営改革は、新しいサービスの提供という観点で非常に有効で魅力的だと思う。広島空港を取り巻く競争環境は激化しており、官民一体となって地域がしっかり支えていく必要がある。
- ② 空港経営改革を、地域にとって有効なものとするためには、事業者選定手続きにおける提案項目や、選定基準が鍵となる。その策定プロセスに地域がしっかり関与できるようにしてもらいたい。
- ③ 有効な提案を引き出すために目標数値の設定は重要である。これまで議論してきた将来像を実現していくためにも高い目標設定が必要だと思う。
- ④ 目標設定ということでは、例えば軌道系アクセスが十分に視野に入るような水準を意識するということも考えられるのではないかと。
- ⑤ 空港経営改革をアクセス改善の呼び水とするためにも、事業者選定基準において空港アクセスに関する提案の比重を高めることが重要である。（駐車場施策やアクセス手段・ルートの多様性の観点も重視してほしい。）
- ⑥ 空港経営改革を進める場合であっても、県や関連自治体の関わりが後退することはあってはならない。これまで主に県等が担ってきた役割を新たな運営権者に任せる分、観光振興による需要喚起や抜本的なアクセス改善策など公的機関でなければ出来ない役割に注力し、引続き空港活性化に寄与してほしい。

- ⑦ 事業者は提案について実施義務を負い、国がこれをモニタリングすることのことだが、30年間という事業期間を考えると状況変化に対応した施策の見直しも必要となってくる。こうした場合も含め、地域として空港運営に関与できる仕組みを作っていくことが重要ではないか。
- ⑧ 広島空港に限らないと思うが、建築基準法の規制（ターミナルビル建設後の法改正によるもの）でターミナルビルの大規模改修のハードルが高くなっている。安全性の確保は大前提であるが、民間活力を最大限生かすという観点からも、規制緩和措置を検討してもらいたい。
- ⑨ 国の想定する一体化の対象施設だけでなく、県営駐車場やホテル、フォレストヒルズガーデンなどとも連携し、一体となって広島空港を活性化させられるような仕組みが重要なのではないか。
- ⑩ 周辺施設（特に県有施設）の取扱いについては、県が方針を示すことが重要である。
- ⑪ 空港経営改革を進めていくのであれば、空ビル職員の雇用維持についての配慮が必須である。

### 3 今後の予定

取りまとめまでに全4回を予定していた会議を全5回の開催とする。

第4回会議は平成28年5月頃を目途に開催。（調整中）